



未来の消防団員へ地域防災教育 及び加入促進 ～消防団×学校が最強タッグ～



兵庫県 福崎町消防団・福崎町立田原小学校
福崎町消防団 団長 浅井 信人

1 はじめに

兵庫県神崎郡福崎町は、古くから交通の要衝として栄え、周囲を緑の山にかこまれ、中央部を清流市川が流れています。気候は比較的安定しており、雨の少ない地域であったため、ため池を多く有しています。日本民俗学の開拓者、柳田國男生誕の地であり、遠野物語から発想を得て妖怪による町おこしをしています。

福崎町消防団は、1本部3支部32分団で女性消防団員を含めた団員数600名及び平日昼間の火災発生時における初期消火及び消防団員への支援に従事する機能別消防団員を25名で構成しています。

人口2万人弱、面積45.79km²の小さい町ですが、平均年齢は約33歳と全国的にも比較的若い団員で住民の生命と財産を守っています。

福崎町立田原小学校は、全校生472名の中規模校です。子どもたちは地域行事に積極的に参加するとともに、学校でも地域の方に授業補助をしていただく等、地域との交流が盛んに行われています。学校、家庭、地域が一体となった教育を積極的に推進しています。

2 取組の背景

子どもたちにとって身近な地域の大人が消防団員として活躍している姿を見てもらうことにより、消防団をより一層身近に感じ、防火・防災に役立てて貰おうと小学校と消防団が連携をすることになりました。また、地域防災力として若い団員確保に向けて幼い時から消防団の大切さや重要性等の意識を持ってもらい、大人になったときに一人でも多く消防団に入団してもらえるよう加入促進も目的としました。



資機材や装備品を自由に触れてもらいます(消防団見学)

3 活動の内容

(1) 合同防災訓練

福崎町立田原小学校において、学校の避難訓練終了後に消防団実践的放水訓練の実演や児童による放水体験、消防団からの講話、車両見学等を全校児童対象に実施しています。

平日の日中で団員にとっては非常にに出にくい時間帯ではあるが、団員は地域の子どものためにと多くの団員が毎年参加してくれています。



ドローンからの映像をお楽しみください(合同防災訓練)

(2) 消防団見学

同校3年生児童を学校の近隣にある分団のポンプ庫に招き、消防団や地元自治会役員(消防団OB)から消防団の役割や意義、体験談の説明をしています。また、車両や資機材、装備品に触れてもらい、児童全員に放水

体験も行っています。

上記の活動は、団員にとってみても消防団員として地域の子どもたちに触れる機会となり、『地域に貢献している』と実感を得られる場としてとても重要だと考えています。



放水体験（消防団見学）

4 成果と課題

福崎町消防団は各集落単位に分団を有し、『自分たちの地域は自分たちで守る』という意識が確立しています。集落内の各分団員の実践的放水訓練に触れ、体験をしてもらうことにより、子どもたちの消防団員への憧れや、親近感を得ることができ、将来の消防団員の加入を期待しています。また、児童の保護者である現団員が訓練内で活躍している姿を間近で見てもらうことにより、現団員の社会に貢献しているという意識の醸成も期待できます。何より子どもたちが直接消防団員の活動に触れることにより、地域への愛着が持てる地域づくりが形成されていると確信しています。

また、今回行った児童アンケートの結果から課題も見出すことが出来ました。アンケートの「大人になったら消防団に入りたいですか？」の問いに「大人になったら消防団に入りたい気持ちはあるが、他のなりたい仕事や夢があるので入れない」等



気分は消防団員!!（消防団見学）

の意見が多くありました。消防団見学では消防団についての説明をしてきているものの、小学生には本業を別に持ち活動をしていることを理解する難しさを痛感しました。この課題を今後の活動に活かしていきたいと思いません。

5 おわりに

田園地域であれ、都市部であれ、消防団員への加入を決める要因は一つに住んでいる地域への愛着とコミュニティの形成であると考えます。地域の子どもたちが直接消防団員の活動に触れることや、団員が子どもたちから羨望されるという関係性が団員の確保や定数の維持につながってくると思います。

福崎町消防団は30年以上にわたり消防団員定数100%を維持しています。それは、集落の数だけ分団が有り、『自分たちの地域は自分たちで守る』という主体的な郷土愛に基づくものだと思います。近年は団員の働き方が多様となり、団員の確保や訓練、消防団活動も困難になりつつあります。風水害についても比較的少ない地域でもあるので、いかにして消防団活動が『我が事』であるかを理解してもらうことが重要です。消防団という枠に囚われず、若い世代における郷土愛の醸成に注力していきたいと思いません。

そして、この取組も5年目を終えました。数年後にはこの取組を経験した子どもたちが消防団へ入団したときに、私たちには最高の喜びが溢れることだと思います。



住宅用火災警報器の大切さを伝えていきます
（合同防災訓練）